

## 概要

- 本県では輪ギクやカーネーションなどの栽培が盛んであったが、燃油や資材の高騰により経営が厳しくなってきたため、主要品目に比べ、**加温温度が低く、収量性も高い**等のメリットがあるランキュラスの県オリジナル品種「てまり」シリーズを推進した。
- 県内すべての生産者を対象に、栽培技術の高位平準化に向けた講習会を開催し、各普及センターが新規生産者を中心に参加を呼びかけ、栽培技術の向上を図った。合わせて、**すべての生産者の土壌診断を実施**し、そのデータをもとに指標を作成するとともに、**土壌診断に基づいた施肥指導等**を行った結果、初期の生育不良が大幅に改善した。
- その結果、出荷数量が拡大し、全国2位の産地となった（令和3年）。

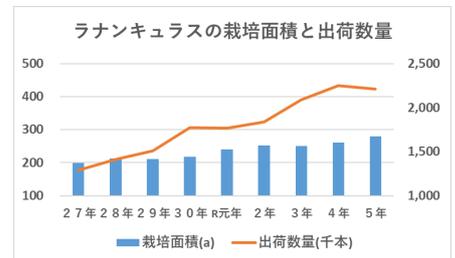
## 具体的な成果

### 1 ランキュラスの作付拡大

- JAと普及センターが連携して新規生産者を勧誘し、生産者数、栽培面積が増大

①ランキュラス生産者数 平成27年 44戸 → 令和5年 58戸

②ランキュラス栽培面積 平成27年 198a → 令和5年 279a



### 2 県オリジナル品種の導入による生産性の向上とブランド化

- 生産性の高い新品種導入と基本技術の励行による出荷数量の増加と単収の増加

①県オリジナル品種：11品種

②出荷数量：平成27年 1,288千本 → 令和5年 2,211千本

③単収(10aあたり)：平成27年 65千本 → 令和5年 79千本

### 3 土壌診断に基づいた施肥改善による安定生産

- すべての生産者の土壌診断結果の分析値から指標を作成し、指標に基づいた施肥改善や高ECほ場の湛水処理等により、初期の生育不良が改善

### 4 レイズドベッド栽培の開発により作業が軽労化

- 令和6年度に4名の生産者がレイズドベッド栽培を導入。生産者は、畝が高いため、腰が痛くないと効果を実感している。



レイズドベッド栽培

## 普及指導員の活動

令和元～6年度

- 新規生産者を中心に、県内すべての生産者を対象とした栽培技術講習会の開催

- 現地における県オリジナル品種の特性調査の支援と栽培管理技術の検討

- 販売促進やブランド化に向けて、商談会や消費拡大PRを実施

令和元、3年度

- ランキュラス「てまり」シリーズの栽培マニュアルを作成し、生産者に配布

令和2～6年度

- すべての栽培ほ場の土壌診断を実施し、結果に基づいた施肥改善。篤農家の栽培管理事例調査等により施肥量の基準を作成

令和5～6年度

- 軽労化に向けて、農業試験場、普及センターが連携し、畝が高く作業が楽なレイズドベッド栽培の検討を開始

- 低コストに向けた出荷資材と品質保持効果の検討

令和6年度

- 7年度から出荷が始まる新品種の出荷目慣らしのための「切前表」を作成し、生産者に配布。

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 専門指導員が普及指導員、農業試験場と連携し、各地域で新品種の調査データや土壌診断結果を収集することで、地域の土壌の指標が作成可能となった。
- ・ 専門指導員が現地実証ほや試験研究を取りまとめた栽培マニュアルを作成することで、普及指導員とJA担当者ともに詳細な栽培指導を行えるようになり、生産者の栽培技術の高位平準化が進み、栽培面積の拡大に繋がった。

香川県

## ランキュラスの生産拡大及び安定生産に向けた支援

活動期間：令和元年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

本県では輪ギクやカーネーション等の花き栽培が盛んであったが、燃油や資材の高騰により経営が厳しくなっていた。

そこで、これらの主要品目に比べ、冬期の加温温度が低く、収量性が高い等のメリットがある、ランキュラスの県オリジナル品種「てまり」シリーズの推進を図り、新規生産者が増加した。

その一方で、生産者間で栽培技術の差が大きいことに加え、品種ごとの適正な栽培管理が異なることから、栽培マニュアルの整備が求められていた。また、管理作業の軽労化に向けた技術開発や差別化による有利販売を行う上で、県オリジナル品種を中心とした生産拡大やブランド化に向けた販売支援が求められていた。

### 2. 活動内容（詳細）

#### 1) 安定生産に向けた支援

##### (1) 栽培技術の高位平準化に向けた講習会の開催

JA と連携し県内すべての生産者を対象に、年間4～5回、講習会を実施するとともに、定期的に各地域の現地巡回を実施した。新規生産者を中心に普及員が講習会への参加を呼びかけ、集約的に栽培技術を周知することで技術の高位平準化を図った。



栽培講習会の様子

##### (2) 土壌診断に基づいた施肥管理指導

専門指導員が中心となり、普及センターごとに、すべての生産者を対象に土壌診断を実施し、診断結果のデータと、篤農家の栽培管理事例調査から施肥量の基準を作成するとともに、ECの高いほ場では、湛水処理等の指導を行った。

##### (3) レイズドベッド栽培の開発と検討

生産者の高齢化が進み、「収穫時の腰痛軽減のための栽培方法を開発してほしい」との要望があり、高畝で改植や収穫作業の軽労化が図れる「レイズドベッド栽培」の開発・検討について、普及・研究・行政連絡協議会で取り組んだ。



レイズドベッド栽培

#### 2) 低コスト化に向けた支援

##### (1) 出荷資材と品質保持効果の検討

出荷用段ボール箱の低コスト化に向けて、国の補助事業を活用し、従来の出荷箱より長さが短く、素材が薄い箱を試作し、市場に出荷し評価を得た。また、

出荷用セロハンの大きさや素材を変え、品質保持効果を検討した。

### 3) 県オリジナル品種の特性調査支援

#### (1) 新品種の現地試験

新品種の普及性を確認するため、国の補助事業を活用し、令和5～6年に県内の全普及センターに展示ほを設置し、品種の特性を確認した。

#### (2) 栽培マニュアルの作成と拡充

上述の現地試験や試験場で得た調査結果をもとにオリジナル品種の栽培特性について、栽培マニュアルにまとめ、拡充を行った。



低コスト化に向けた出荷箱試験

#### 4) 販売促進や消費拡大PR活動支援

市場で実施する商談会や県内で開催している「フラワーフェスティバル」、  
「全国高校生花いけバトル」において県オリジナル品種を展示し消費拡大に努めた。

## 3. 具体的な成果（詳細）

### 1) ラナンキュラスの作付け拡大

JAと普及センターが連携し、「加温温度が低く、豊産性。優良な種苗が購入できるのが強み。」と新規生産者を勧誘し、生産者が44戸（平成27年）から58戸（令和5年）に増加した。

また、新規生産者を中心に、県内すべての生産者を対象にした講習会を実施し、作成したラナンキュラス栽培のしおりに基づき基本的な栽培技術を励行することにより栽培面積は198a（平成27年）から279a（令和5年）に増加した（図1）。



図1 ラナンキュラスの栽培面積と出荷数量

### 2) 県オリジナル品種の推進による出荷量の増大

農業試験場で育成した新品種の栽培特性等を栽培マニュアルに加えてを拡充し、指導した結果、県オリジナル品種の面積は53.8a（平成27年）から215.2a（令和5年）に増加し、ラナンキュラス全体の出荷本数は1,288千本（平成27年）から2,211千本（令和5年）に増加した（図1）。

また、産地として出荷時の切前を揃えて市場評価を高めるため、切前表を作成しすべての生産者に配布して品質の向上に努めた。



新品種の切前表

### 3) 土壌診断に基づく施肥指導による生育改善

全栽培ほ場の土壌分析結果と篤農家の栽培事例調査等から、施肥量の基準を作成し、栽培マニュアルを拡充した。特に EC や硝酸態窒素の値が高いとラナンキュラスの初期生育に影響があることがわかり、定植前の湛水や、減肥により値を下げることで初期生育が大幅に改善した。

### 4) レイズドベッドの導入による軽労化

普及と研究、行政が連携し推進した結果、現在4戸の農家がレイズドベッドを導入した。さらに、令和7年には2戸の農家で導入、拡大予定である。

## 4. 農家等からの評価・コメント（さぬき市H氏）

講習会では、栽培技術や病害虫の情報など、新しい情報が提供されるので、できるだけ参加している。今後も基本技術を励行し、生産拡大、高品質化を目指したい。

以前は冬期にハウス内の湿度が高いと出荷時に花シミができるなど、栽培に苦勞していたが「恋てまり」という品種が育成され品質が改善された。

また、今後、供給予定の新品種は、今までにない花色でバリエーションが広がるので早く作付けしたい。

## 5. 普及指導員のコメント（農業経営課・主席専門指導員・梶野陽子）

専門指導員が普及指導員、農業試験場と連携し、各地域における新品種の生育調査や土壌診断結果のデータを収集することで、県レベルの土壌の指標作成が可能となった。

また、専門指導員がコーディネートして県共通の栽培マニュアルを作成したこと、普及指導員がJAと連携し各地域において丁寧に技術指導を実施したことが、新規の生産者が増え、ラナンキュラス「てまり」シリーズの栽培面積、収量の増加に貢献したと考える。

引き続き生産者に「基本技術の励行」を働きかけていくとともに、消費者に香川のオリジナル品種の良さをPRしていきたい。

## 6. 現状・今後の展開等

今年度から新品種「春てまり」、来年度に「あんずてまり」の生産者への導入が始まる。品種の栽培特性などを講習会等で周知するとともに、県内の産地を巡回指導し安定生産に努める。

さらに、試作した出荷箱については、本年より新しい低コストな出荷箱に変更できるよう、JAと連携し導入、普及を進める。



新品種「春てまり」